

診療所待合室
東日本大震災
起こる

大山口診療所

久野 宣年

3月11日から10日間、テレビは連日どの局も東日本大震災のニュースばかりでした。そのため、大震災がすぐ近くの町で起こっているように感じられ、大山口診療所に通院してくる患者さんの中には知らないうちに体調を崩したり、不注意な失敗をした人があったようです。

報道されるニュースに次のようなことなどがありました。震災で妹と姉を亡くした初老の男性が津波で土台だけになった自分の家の前で「私の家の軒先には、たくさんチューリップの球根がつりおろしてあった。それがここで芽を出し、花を咲かすだろう。それが楽しみだ」と語っていました。また亡くなった夫をみつげ出してくれた人たちに、その若い妻は言いました。「ありがとうございます。」

震災の避難所の小学生にテレビ

クルーが質問します。「何か欲しいものがありますか？」男の子は少し考えてから、はっきり言いました。「ありません。」

地震の後、ひどく陥没し、ゆがんで通れなくなった長い道路が1週間もたないうちに補修されていました。奇跡的な速さだと言っていました。現地には何日も会社泊まりこんで作業を続けた人々がいました。

日頃から『地震や津波があったら隣の小学校の児童を連れて逃げるように』と言われていた中学生は、まさにその日、小学生の手を引いて高台に避難しました。

被災地の辛抱強さ、規律正しさは世界中を驚かせています。このようなニュースを見ていると強く感じることはありません。「東北の被災地の人々の心は、もう復興しつつある」ということです。

後は時間とともに復興した現実の姿が現れるのを待つのみ。離れて見つめている私たちの心も、そこでやっと落ち着きます。



大山町人権交流センター TEL 0859-54-2286
大山町茶畑1077-3 FAX 0859-54-2413

人権のつぼ 70

小地域懇談会を振り返って

「やっばりこのまちがすき」



平成22年度の小地域懇談会は「やっばりこのまちがすき」をテーマに10月中旬から12月中旬まで、区長さんや社会教育推進員のみならずのご協力により、158集落、1,218人のご参加を頂いて行いました。また、300人を超え推進者の皆さまにも大変お世話になりました。

懇談会のポイント

「人権」とはすべての人に保障されている具体的な権利です。また、人間として生きていくうえで、欠くことのできないものであり、日常生活に直結したものです。

今回の小地域懇談会では、「人権」そのものについて学び、普遍的な視点からの学習に取り組んでいただきました。

学習形態も、参加者の皆さんが各地域や集落の実態を出し合い、「話しやすい」「意見が言いやすい」よう「参加型」の学習形態を取り入れました。

参加者のアンケートから

「参加回数」を見ると「初めて」が14・1%、「2回〜5回」が36・1%でした。参加者の固定化ということが言われますが「初めてから5回」までが50・2%あり、新しい参加者も多くありました。

「話し合った内容」については「とてもよかった」12・7%、「よかった」72・0%と、合わせて84・7%の方から評価をいただきました。

「話し合いへの参加」の項目でも、82・3%の参加者から肯定的な評価をいただきました。参加型学習の成果だと思います。

「自分の見方や考え方を振り返って」の項目では「とても参考になった」12・0%、「参考になった」69・7%という結果でした。

なお、このアンケートの詳しい内容については、大山町同推協広報紙「ぬくもり」15号でお知らせしています。